

船舶事故調査報告書

平成24年5月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成23年11月3日（木、祝日） 09時20分ごろ～10時53分ごろの間）
発生場所	不明（北海道根室市所在の ^{ゆるりしま} 緩島灯台北西方沖～同灯台南西方沖の間）
事故調査の経過	平成23年11月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーモーターボート ^{たか} 貴号、5トン未満 200-20591北海道、個人所有 6.15m (Lr) × 2.25m × 1.14m、FRP ガソリン機関、84.6kW、平成2年8月
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成19年8月20日 免許証交付日 平成19年8月20日 (平成24年8月19日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り仲間のプレジャーモーターボート（以下「B船」という。）1隻と共に緩島灯台北西方沖に着き、本船は、パラシュート型シーアンカーを投入し、B船は錨を投入して09時20分ごろからそれぞれ釣りを開始した。 B船は、09時30分ごろ錨を揚げ、根室市ユルリ島南方の七ツ岩付近に移動した。 B船船長は、10時20分ごろ、本船の釣果を尋ねようとして携帯電話により本船の船長を呼び出したが応答がなかったので不審に思い、ユルリ島西方のユルリ海峡を南西方に圧流されて西方に見えていた本船に向かった。 B船船長は、10時53分ごろ緩島灯台南西方でパラシュート型シーアンカーを投入した状態で漂流している本船及び本船付近の海面に救命胴衣を装着した状態で漂流している本船の船長を発見し、船長を収容して病院に搬送したが、死亡が確認され、溺水と検案された。 また、本船は、巡視艇により、花咲港にえい航された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1m、水温 約13℃

その他の事項	<p>船長の健康状態は、普通であり、持病等は確認されていなかった。また、飲酒はしていなかった。</p> <p>本船は、発見時、機関は中立で運転されており、釣り竿は船内に立て掛けられ、船内出入口扉は閉まっていた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 なし 不明</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> <p>本船は、09時20分ごろ緩島灯台北西方沖でB船と共に魚釣りを開始したのち、10時53分ごろ緩島灯台南西方で本船及び本船付近の海面で漂流している船長が発見されたことから、この間において、船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が緩島灯台北西方沖で魚釣りを開始したのち、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>	